

上志津原たより

平成 17 年 3 月 31 日発行
発行 者 上志津原町会
発行 責任者 上志津原町会 広報係
刷 花島印刷 043-461-5552

主な内容

- ・第 11 回定例班長会議…………… P 1
- ・第 12 回定例班長会議…………… 1
- ・臨時役員会議と規約改正案の件…………… 1
- ・16 年度班長退任挨拶（代表安藤副会長）…………… 1
- ・グランド運営委から（大久保委員長）…………… 1
- 特集記事**
- ・「上志津原 生き立ちを振り返る」… P 2～3
- ・6 年間お世話になりました（子供会）… P 4
- ・子供会役員を終えて（森本会長）…………… 4
- ・入学・卒業おめでとうございます…………… 4
- （小学校・中学校 入学・卒業生のお名前）
- ・地図から見えるもの（佐藤文章係）…………… 4
- ・お知らせ（転入・転出）…………… 4
- ・編集後記（これからの広報）…………… 4

平成十六年度

第十一回定例班長会議

2 月 5 日 19:00～21:00

主な議題と討議内容

一、上志津原町会 定期総会の準備
総会案内の回覧と、出席（又は委任状）調査の方法について討議しました。
回覧を回したが、意思表示の無い家庭の措置について。（出席が委任かの）無署名の家庭には現班長が戸別訪問をし、委任状への署名捺印をお願いするこ
とになりました。

二、原トピアにパソコン設置の件

広報担当が無償で譲り受けたパソコンを、秋庭自治会館運営委員会長の許可を得て 1 月 30 日「希望の間」に次の目的のために設置しました。
広報による「上志津原たより」の版下作成（担当委員会議の作成が容易です）
サークル活動「パソコン倶楽部」のホームページ・上志津原の共同制作
等にご利用しますが、町会員なら何方でも利用できますので活用してください。
尚、当面管理責任者は原 2 班の林 功さん（489-5384）にお願ひします。その「用の方は連絡して下さい」。

三、新役員選出と職務引継ぎ等

本日の班長会議には、次期班長さん達

の新役員との互選会議が行われました。結果の詳細は 4 月号に譲りますが、新町会長には大和台の中山亜茂さんが決定した事だけお伝えしておきます。
尚、職務の引継ぎは次回の班長会議の 3 5 日（土）に予定しました。

平成十六年度

第十二回定例班長会議

3 月 5 日 19:00～21:00

主な議題と討議内容

一、定期総会に向けての準備

規約改定に係る総会資料
昨年の総会で、町会規約の委任状の扱いは議長一任とする」というの修正動議が出され、改定する事が決まっています。従って総会に諮るべく町会規約改定案文作りを、佐藤文書係りに依頼しました。

その後

3 11 臨時の役員会議を開催、改定規約の最終案作成と、その承認方法について討議しました。（詳細後述）
3 26 臨時の班長会議を開催、総会当日の段取り、資料の確認及び総会配布用のレジメを作成しました。

二、次年度に引継ぎ事項の件

要請書の申し送り（生嶋副会長）

会員から出て来た要請書はその都度申請してはいますが、市の対応が遅れていたり時間的に間に合わなかったり未解決（未施工）案件は、次期担当者にバトンを渡し、次期担当者が完工を見届けることとなります。

道路関係では、15 年度 3 件だった要請件数が、本年度は 16 件もありました。従って未施工案件も多く残っています。（2 月末現在、完工率 63%）

その他「ふれあい通り」の街灯設置工事等も永年引継ぎになります。次期の当該担当者の方宜しく願ひします。

新旧役員職務引継ぎ

本日は班長会議終了後、新旧の担当者同士で職務引き継ぎを実施しました。

3 11 臨時役員会議 19:00

現在の町会規約は「委任状の扱い」の他にも定期総会の成立要件が未記載になっている等、町会運営上の不具合が幾つかあり、これを機に総合的に見直しという事で改定は複数箇所になりました。文書係りが作った原案をたたき台に、役員 5 名で改定規約の案文を作成しました。

作成した改定案の承認方法について

現規約 18 条では（規約の改定は）「総会の同意により改定できる」と、本来なら総会で承認されるべき事項です。

然し、今回の改定案はこの 18 条を始め規約の根幹を含む改定になりました。

従ってその承認を頂く方法としては、改定の趣旨を説明した上で全委員の判断を仰ぐのがベストと結論し、言わば回覧による「町民投票」にしました。

その後

（3 13 付）規約改定の趣旨および、旧規約と改定規約案を対比した文書を回覧し、改定案に同意か否かの判断を戸別にお願ひしました。その集計結果は定期総会で報告されます。

平成十六年度

町会班長退任の挨拶

班長代表：副会長 安藤 雅典

早いもので、平成十六年度町会班長をお引き受けしてから一年が過ぎようとしております。振り返ると、初夏のスポーツ大会、幹線道路清掃と共に天候不良で順延、中止というスタートではありましたが、町会員の皆様の多大なる御努力と御尽力のもと、浜田友房町会長以下班長 21 名が一致



団結し、その後の盆踊り大会、秋の幹線道路清掃、大運動会とすべの行事を成功裡に終えることができました。
上志津原町会
は町会員の皆様を含め、双葉会、自治会館運営委員、グランド運営委員、子供会など、様々な団体組織によって支えられています。私達が今年度の活動を無事に行えたのもこれらの方々の活躍があつてこそのもので、順

備の段取りから実行運営に至るまで、私達の行き届かない面を補い、また率先して盛り上げてくれました。まさに「まち全体」でつくり、活動するイベントでした。最近になってある班長が、「上志津原の人達の協力的な姿勢」にとても驚き、感心した」と言っておりましたが、こんな率直な感想が出るのもつなはずけません。

最近、巷で起る事故や事件、特に凶悪犯罪の被害、加害者の低年齢化というようなことを見聞きするたび、この国の治安及び社会情勢の不安定さを感じずにはいられません。二つした現状のなかで、近隣や地域での活動等を通じた人間関係や相互協力の確立の必要性が叫ばれています。その意味で上志津原の諸々の活動はこのよつな現代社会に求められているものであり、同時に、これらを間近で見ると、さらに一緒に活動させていた

上志津原町会 グランド運営委員会

運営委員長 大久保 峯夫

永年運営委員長をお引き受け頂いていた永松秋夫さんが転出され、年度途中の 11 月よりその運営を下記メンバーが引き継いでおりました。遅くなりましたが、永松さんの永年のご尽力に感謝すると共に、新メンバーのご紹介を致します。

町会にグランドが設置されていることに感謝をして、諸団体の皆様が快く競技できますよう運営に努力をしていきたいと思ひますので、原グランド・下記メンバー共々宜しくお願ひ申し上げます。

運営委員長：大久保峯夫（487-5398）

副委員長：丸田 衛（463-0204）エンドレス
副委員長：西田 昭彦（462-2922）南志津ツイズ
管理運営：廣川 照彦（461-0260）エンドレス
管理運営：吉田 勇（489-5361）キングスターズ
会 計：小林 崇男（489-2877）キングスターズ

グランド使用の予約は
西田副委員長に連絡をお願いします



今年、日本は戦後60年になります。ここ上志津原は明治年間に軍用地として国に買い上げられ、人の住めない土地でした。それが「終戦によって開放され」全国から入植者が来られました。即ちこの町は「再び人々が暮らし始めて60年」初めての還暦を迎えた事になります。こうした事から広報係はこの町の生い立ちを知る良い機会と考え、3月号の特集とする事にしました。慣れない仕事でまとまっていりませんが、参考になれば幸いです。

記事を作るにあたって

記事は取材と資料調査でまとめました。取材は「上志津原の生い立ちを語る会」と題した座談会を催し、その様子や話の内容を記事にしました。座談会に出席して頂いた方々

- ・山下 三好さん ・長谷川明房さん
- ・五ノ井孝子さん ・池田三知子さん

(人選に当たっては山下三好さんのアドバイスを尊重しました。その他「宮武孝吉さん他2名の方を招待しましたが、何れも「都合が悪く残念でした」尚、座談会の模様は「問一答ではなく、紙面の都合で数回のお話しを取りまとめて記述してあります。資料調査は

・宮武孝吉さんの著書「志津の甲斐と名所」と「上志津原の地名をたづねる」、長谷川定房さんの著書「上志津原の生い立ち」と、平成14年1月号「原たより」に投稿された「ふれあい通り今昔」の内容を、参考及び引用させて頂きました。

尚、3冊の著書とも貸し出しも「ペー」も禁止されていましたので、止む無くメモで対応しました。(県立中央図書館(二つ)した事もあって、この記事に「誤りが無いか」著作者の一人に監修をお願いしました。

還暦 上志津原 生い立ちを振り返る

写真提供: 宮武孝吉さん



「水が出た！」昭和32年 畑地灌漑用の井戸が完成、記念に集まった開拓の人々。背景はまだ若い松林が続く防風林の様です。

創成期(開拓の始まり)

戦時中「1」帯は3500坪の旧陸軍の下志津原演習地でした(それは真四角なら、約6m四方にも及び広大です)資料によると、終戦の年の昭和20年12月に入植が開始され、翌21年初頭から元飛行隊・野砲学校の将校達が先導となって開墾が始まりました。

この時、北部の一角に「上志津原開拓団」の前身となった「勝田分団」が誕生。この分団がこの町の元祖のようです。開拓は開墾上志津開拓管団として、事業

主は国、開拓は入植者が請け負う形で(国費)国策)による農地化でした。この国策は、終戦直後の食料難対策と、軍人や風船爆弾工場等、元軍関係者の職業支援目的もあつたようです。

入植者数は一時50名以上になりましたが、厳しい生活環境で離脱者が相次ぎ昭和22年には34名になったそうです。出身地は北は新潟から南の沖縄まで11都県におよび、多かったのは東京9名栃木7名で、地元千葉県からは1名でした。

われていました。長谷川さんも「草原と言っても、草丈は自分の背丈以上の所が多かった」と話されていきましたので、道路は見通しのきかない迷路状態だったようです。そんな状態だった道路も、現在の上志津原の地図を見ると、千葉、志津間の幹線道路を挟んで宅地・農地の道路共に、碁盤の目のように走っています。



「幹線以外の現在の道路は、入植者により農道用として造りました」

「囲まれた土地が同じ形の長方形になっているのは、おっしゃる様に全て100間×60間(180m×108m)に区画したからで、面積は2町歩(約250坪)になります。当時入植者1戸当たりの割り当て面積が2町歩だったのです」

「道幅は2間(3.6m)にし、現在の公道基準(4m以上)に達していませんが、当時農道としては十分でした」

道路状況の移り変わり

山下さんが初めてここに来た時、「千葉と四街道へ通じる道路はありません。今の幹線道路付近でしたが、砂利も入っておらず草の生えた馬車道でした」

その他の道は軍がこの地を買い上げる前の道路を使ったり、自然発生的に生活道路も出来たはずですが、いずれも補修等の余裕はなく、水溜りになると別の所が新しい道になる事の繰り返しで、「原に入り込むと二度と出られない」と言

かすが沢山あつての2合は十分な量ですが、ご飯だけの2合、それも開墾作業の重労働ですからむじかつた様です。長谷川さん

「豊富に自生していたワラビの他、キノコ(ハツタケ)はご馳走でしたねえ」

山下さん 「蛇(シマヘビ)も蛙(ヒキガエル)も食いました。蛙は皮をむいて焼くと美味しいものでしたよ」

「この辺にシマヘビが居ないのはその時に食ってしまったからですよ」

「サツマイモの収穫が出来るとよくなりました。食糧事情は好転しましたが、風船爆弾の糊の原料だったコンニャク粉が放出・配給され、空腹の足にした時もありました」

「あれは水で溶かすと幾らでも増えたなあ」と当時を偲んでおられました。

当時の住宅事情

資料によると、元陸軍教育隊の兵舎を解体、その古材で6畳1間・十間3坪の家を共同作業で一軒一軒建てていきました。材料はリサイクル、大土も素人ですから居住性は相当悪かつた様です。

山下さん「二人で暮を打っていたが、隙間風と共に吹き込んで来た粉雪が碁盤の上で舞い、余りの寒さに途中で止めたよ」に、大笑いしました。



当時の住宅です。「朝起きたら布団の上でうすうすと雪が...そんな事もあったなあ」と、山下三好さんご夫妻

当時の食料事情

山下さんによると、「一日米2合1勺の配給があつた」そうですが、今の様に

昭和23年春電灯が灯りましたが、山下さんのお話では「電柱と電線は開拓団で用意し、工事に必要な数の人夫も出す事」を求められ、「柱は近隣の農家から分けて貰い、工事のときは技術者の指示に従って皆で働きました」

電気を引く為には全面協力が条件だった様で、一同ただ驚くばかりでした。

人口の推移

開拓者は若い人が多く翌年からベビー誕生が相次ぎました。(平野周吉家に開拓第1号の男の子が生まれ、開拓にちなんで拓男と名付けられました。現在は平野産業㈱の社長をしておられます)

この様な人口の自然増はありましたが、元々この辺り一帯が人口密度の小さい地域です。従って公共の施設はなく、当時の子供たちにとって通学が大変だったようです。長谷川さんによると

「3年生までは矢橋にあった上志津小学校の分校でしたが、4年生からは上座にあった志津小学校まで通いました。悪路だった為土手をよじ登ったり降りたり、片道5〜6kmあったと思います。行きは元気があったのですが、帰りは疲れて1時間半から2時間かかりました。」

帰りに着いてすぐ開墾の手伝いをさせられていた子どもが多かった様で、余りの過酷さに一同愕然としてしまいました。

昭和40年頃から八統苑・原団地・商店街辺りから宅地造成が盛んになり、毎年40戸程の転入で人口が増え、一気に300戸を超えました。45年に市街化調整区域

になって落ち着きましたが、微増が続き現在は550戸弱になっています。

丁場の進出もあり、中でも「光莫大小」はこの地で大きな存在でした。

「大勢の人がここに働きに行っていました。町会イベントの景品は全部この会社からの寄付でしたし、年3回程度のバザーも楽しみでした」と、皆さん最盛期の丁場を懐かしんでおられました。

地名の由来

一、町名「上志津原」の由来

開拓当初の二帯は、志津村 上志津 無番地でした。(山下さん「郵便はこれ

も届いていました」だそうです)

○昭和26年ここを登記するとき新しい地名をつけようという協議をし、その結果「原」と決まりました。

○ただ入植以来上志津に属していた為上志津の人たちの了解も得ようとなりましたが、「上志津で新しく開いた土地なら、上志津新田」等とつけるもので、単に「原」などけしからん」と言い、了解してくれませんでした。

○長い地名は手紙を書くとき不便だと言ったが、入植以来お世話になっていての手前逆らう訳にもいかず、「上志津原」に決定したそうです。

二、上志津原町会「班名」の由来

1組・10組：最初にできた班名です。当初は見渡す限りの草原でしたが、3ヶ所に松の木が植えられた小さな林があり、3号・4号・5号林と呼ばれていました。そこでその地域が3組・4組・5組、他は適当に決められた様で今でも南・西・東地区に順不同に分散しているのはその為です。(3・4組等になったのは戸数が少なく、その後合体した為でしょう)

原1班2班：初期の頃の造成地でこの一帯を通称「原」と呼んでいた事から「原団地」になりました。戸数が多く2班に分けた様です。

南原1班2班：原団地の後に造成されたその南側だったので「南原」団地です。

幸野 大和台

この2班は旧住居表示の小字(「アザ」)からきています。その小字名の由来は幸野はこの入植者に栃木県出身者が多く日光中禅寺湖の別名「幸野湖」から、大和台は東京都大和市(現在の東大和市)出身者が多く、何れも望郷の思いを籠めた小字名だったので。

東邦：東邦シート(株)の社名が由来です。

栗林：今もありますが、当時から栗林(栗畑)がこの特徴だった様です。

玉木1班2班：ここに入植されていて当時班長だった玉木さんからきています。

八統苑上・下：この宅地造成も志津駅前にあった大田商事によるもので、ここを買った池田さんによると「最初から八統苑と呼んでいました」ということですので、売り出す時に会社がつけた「造成地の商品名」の様です。

新栄台：山下三好さんが町会長をしている時町会で命名しました。新しく栄える様に、との思いだったそうです。

商店街：唯一商店があった地区で、当時是最もわかり易かった班名だったと思われまます。

「上志津原たより」の創刊

原たよりに寄せて
発行月日 48.5.15
発行所 上志津原町会
編集責任者 長谷川定房

右は創刊号の1面の頭です。発行月日48・5・15は、ここに出席されている山下三好さんが町会長の時です。紙面は市長の祝辞の一部が出ていますが、この後の山下会長挨拶には「開拓者だけの小さな部落が一致協力、団結した甲斐あって『上志津原はまとまってきた』と言われようになりました」と書かれ、その後、現在のよりに300戸を超えるようになると、知らぬ同士が沢山になり解り難いことも数多くあります」とも書かれています。

原たよりの創刊は、宅地造成で続々と入つてこられる新住民とも解り合ひ、絆を深めたいとの思いがあったようです。当時の広報について、五ノ井さんから興味深いお話がありました。

「上志津原たよりの発行は町会班長の役目ではなく、長谷川定房さんが主催するボランティアでした。ガリ版・謄写版の

時代です。私はその時の編集委員でしたが、小学校に輪転機が入ったというのでよく使わせてもらいに行きました。また、寝たきりのお宅を訪ねて取材したこともあります。」

山下会長・長谷川編集長は開拓者ですが編集委員だった五ノ井さん・福祉委員になられた池田さんは新住民です。

「ふれあいどおり」の由来

資料によると、元々ここは国有防風林で開拓者によって全面に「松」が植えられました。原トピア付近の「赤松」は当時の松ですが、虫害によって大半が枯れました。枯れた跡に「松」や「銀杏」なども植えられました。が、多いのは昭和39年市制10周年記念事業として校植樹の話があり、苗木の給付を受けて皆で植えたのが始まりでした。華やかに春を彩る様になると「これはいい、もっと植えよう」と言いつつとで約10年後に2回目の植樹もしたそうです。

平成2年に佐倉市に移管され、平成11年に防風林の中央を縫うように続く遊歩道を造つてくれました。10月に完成し、11月の「広報佐倉」でこの遊歩道の整備を導いたのが、「上志津原ふれあいどおり」と言つた名前の由来です。

尚、遊歩道が入植後まもなくこの園



有林も払い下げの話があったそうです。数多くの開拓組合のうち上志津原だけは払い下げを受けませんでした。理由は当時の方々も思いつけないよう、随分大らかな話ですがお陰で「ふれあいどおり」が誕生した訳です。入植された方々の大らかさに感謝しなければなりません。

池田さんが「私は東京生まれですが、ここで生まれ育った子供達は上志津原こそ『ふるさと』と思つています。美しく安穩なふるさとを創り、次の世代に伝えてあげることが私達の責務だと思います。」と話されていました。まさにその通りだと思います。ここには開拓当初から歴史を見つめてきた防風林の樹木と、その中に包まれて散策の小道「ふれあいどおり」があります。ホッとする安らぎの空間、子供たちが集まっていたりもこの情景は決して忘れることはないでしょう。

他にはない上志津原の贅沢な財産ですから、子々孫々まで「故郷上志津原の象徴」として大切に伝えたいものです。

「あながき」(広報係より) この記事は上志津原の生い立ちのほんの一部を紹介したに過ぎません。特に創成期について詳しく知りたい方は、先に紹介した長谷川定房さんと宮武孝吉さんの著書の閲覧をお奨めします。尚、「志津の史跡と名所」は原トピアにも備えてあります。

「この記事の影響で『ふれあいどおり』の樹木をしげしげと見て歩きまわりました。この時「記念植樹の桜」だと思われまますが、木の各所に、「異様に細かく枝別れした部分」があるのに気がきました。「天狗栗病」だそうなんです。治せるのかどうか解りませんが、大切な桜ですから治療の要望書を出す事にしました。(公園緑地課に3・7提出・収受済)

...完

卒業 おめでとう

今年も卒業シーズンがきて、子供会からも 16 名が巣立っていきます。卒業にあたって多くの子供達から 6 年間の思い出や、将来の夢を寄せてくれました。写真はボーリング大会で撮った 6 年生だけの記念写真ですが、参加できなかった子供達のメッセージも 枠に紹介しました。

この時期は、夢と現実が入り混じった難しい年頃で「まだ決めてません」も当然ありますが、今からしっかりした目標を持っている子どもも多く頼もしい限りです。上志津原から実業家や学者や五輪選手やシューマッハが輩出したら凄いですね。夢が現実になる様、私たちも「陰日なの応援をしたいものです。頑張れ！」

子供会役員を終えて 子供会会長 森本まり

本年度は、新入生歓迎会から 6 年生を送る会まで、6 回の行事を行うことが出来ました。子供たちが楽しめる場所と言つ事、役員一同試行錯誤で、場所決めや食事にバスの手配などしてまいりました。その分子供たちも楽しんでくれた様に思います。

途中、次期役員の方が中々決まらず、「子供会存続も危ない？」と思われた時もありましたが、無事に決まって良かったです。引き受けて下さったお母様方、ありがとうございました。

私事ですが、この 1 年大変でしたが、子供の様子が伺えて良かったと思っております。

皆さんも敬遠なさらさずぜひ一度は体験なさってくださいね。子供の意外な一面が見えるかもしれませんよ！

それでは、いたらない会長でしたが一年間ありがとうございました。

遠足で行ったディズニーランドが、すんごく楽しかったです！(いつか忘れましたが)のりまわしました。将来の夢...きちんとはきめてません。ああ、えっと、お世話になりました。(篠崎 史佳さん)

ホワイトスクールが良かったです。将来は動物や昆虫、は虫類、両生類、魚類などの研究をして、図かんや本を作りたいです。(周郷 泰生君)

ディズニーランドでいろいろな乗り物にのれたことが、面白かったです。将来の夢は、陸上の選手になることです。(小池 邑季君)

ホワイト スクールが、6 年間で 1 番の思い出です。将来は、保育士になりたいです。(五十嵐結衣さん)

6 年間で、1 番思い出になった事は、ホワイトスクールです。将来の事ははまだ決めていません。(鎌田 千尋さん)

1 番思い出になったのは、ホワイトスクールです。将来は、農家になるかな。(工藤 智生君)

バス遠足で行った、ディズニーランドが 1 番思い出に残っています。将来の夢は、まだはっきり決めていませんが、社長になれたらいいなあ、と思います。(速水 雄大君)



ゆうやとふざけてた時が 1 番の思い出です。将来の夢はまだ特にありません。(大畑 大輔君)

ジブリの森と、シーパラダイスが 1 番思い出に残っています。将来の夢...考え中です。(工藤 遥さん)

6 年間、子供会にいた事が思い出です。将来は、じゅう医考古学者になりたいです。(友利 美波海君)

6 年間で 1 番の思い出はホワイトスクールです。将来の夢は、カーレーサーになることです。(高井 光司君)

ホワイトスクールが 1 番の思い出です。将来の夢は、まだ解りません。(林 陸貴君)

ホワイトスクールやボーリング、それにディズニーランドもいい思い出です。将来は、建築士になりたいです。(藤野 大樹君)

6年間お世話になりました

入学・卒業 おめでとうございます

九同組	八紘苑下	同	同	玉木班	六組	二組	幸組	十五組	五組	三・四組	南原班	九同組	八紘苑下	同	同	玉木班	六組	二組	一組	栗林組	十組	三・四組	南原班	南原班	原一班	新栄台	八紘苑下	八紘苑上	玉木班	栗林	幸野	三・四組	南原班	原一班					
大川 樹里さん	岡本 紀子さん	速水 美穂君	五味 圭吾君	湯浅亜紀子さん	湯浅奈津子さん	友利帆矩人君	田代 和也君	金子さくらさん	岩崎 美和さん	宮坂 明子さん	川島 芳樹君	三橋由美さん	篠崎 史佳さん	岡本 香さん	速水 雄大君	高井 光司君	湯浅 敬士君	藤崎 麻衣さん	富樫 晶君	林 睦貴君	友利美波海君	大畑 大輔君	安藤久美子さん	古谷宗一郎君	鎌田 千尋さん	工藤 智生君	小池 邑季君	工藤 遥さん	藤野 大樹君	周郷 泰生君	松尾 健介君	中村 一輝君	大須賀 悠君	宇野まりんさん	長谷川作夢君	泉 翔真君	小池 智也君	三浦 航君	佐々木綾香さん

お知らせ

転入(上志津原へようこそ)
西地区 栗林 古谷 美和さん 3月
東地区 9 組 須藤 明正さん 1月
東地区 玉木 2 班 久恒 洋子さん 3月
東地区 新栄台 関谷 常吉さん 1月

転出(さよならお元気で)
東地区 9 組 須藤 明正さん 1月
東地区 玉木 2 班 久恒 洋子さん 3月
東地区 新栄台 関谷 常吉さん 1月

地図から見えるもの

文章係 佐藤 容子

原地区の全体図と班別図が、ようやくこの 3 月にでき上がりました。

この地に引越して間もなく、他の班はおるか自分の班の範囲や位置さえも定かではない私が班長となって文章係の任に就き、最初に困ったのは、作成した書類を届けるお宅は何処に...ということでした。班ごとの地図ってない? そんな単純な事から始まった「班探し」は、思いも寄らぬ方向へ。

班長さん一人一人に御自分の班の位置を確認して貰うには先ず原地区全体の地図が必要となったのですが、調べてみても、そんな地図はなく...止むなくツギ八ギで全体図を作り班位置を書き込んで頂くと、班によっては東西南北に長く延びていたり、番地を飛び越えて二ヶ所に分かれていたり。区分けされた地図を前に、原地区の成り立ちの一端が垣間見えたような気がしました。

保管場所は未定ですが、なるべく誰でも気軽に見られるようにと思っています。

編集後記(これからの広報)

1 年が経って、原たよりのパソコン制作も軌道に乗ってきました。概ね支持して頂いていると思っておりますが、一部から後が大変とも言われました。私達も今まで通りにはやっていたら批判? を受ける事は無かったでしょう。でもパソコン化は避けて通れない流れになっていきます。変化に対する不安がこつした声になったと思いますが、面白い広報にしようと思えば何時かはやらねばならなかったのです。

...これからの広報担当の方へ...元に戻すのは自由ですが、出来ればこのままの継続を希望します。その為の協力要請なら喜んでお手伝い致します。

最後に、転換期のつたない原たよりを読んで頂きまして有難うございました。...広報係一同...